

2023年9月期第1四半期 決算説明会（WEB会議） Q&A（2023年1月31日開催）

シミックホールディングス株式会社

Q. 第1四半期の実績は計画に対しどの程度上振れたか。

⇒計画段階において、コロナワクチン関連ビジネスは第1四半期までは前期から継続して一定のボリュームがあると想定していたため、全体としてはほぼ計画に近い水準だが、ヘルスケアレボリューション事業は利益ベースで5～10億程度上振れている。

Q. 製薬企業のMR数の適正化が進んでいるが、今後のMR派遣業務の伸び率をどの程度と考えているか。

⇒MR派遣は堅調に推移しており、今後も一桁後半の成長が期待できると考えている。現在、コロナ関連のMR派遣のニーズもあるが、一定期間経過した後、多少は落ち着くと想定される一方で、製薬企業のMR数適正化によるアウトソースのニーズも高いので、トータルとして順調に成長するとみている。

Q. DCTを活用した臨床試験の引き合い状況は。CROとして今後DCTが普及するために必要なものは何か。

⇒製薬企業からDCTに関する問い合わせは多く、当社も海外企業との提携等、支援体制を整えているが、現状ではDCTをフルパッケージで行う案件は受注していない。現段階では制度上の課題があることや、新しい取り組みへの慎重な姿勢も見られるが、今後は部分的なDCT化は進むと考えている。当社としては、顧客のニーズに合わせ、案件に応じたソリューションを提供していく。

Q. 新型コロナウイルスワクチンの接種率が減少している中、ヘルスケアソリューションの業績が好調な理由は。

⇒FY22はワクチン接種支援業務が大きな割合を占めていたが、現状は、コロナ関連支援業務として、自治体への抗原・抗体検査キット配布や、陽性者のフォローアップのコールセンターなど、ワクチン接種支援以外のサービスを拡げているため。

Q. コロナが収束した後、持続的な成長につながるビジネスはあるか。

⇒ワクチン接種支援業務をきっかけに、様々な自治体と仕事をする機会を得た。住民の健康や疾病予防などの相談も受けるようになっており、社内外のITツールや健康情報を融合し、ソリューション提案に向けた様々な仕掛けを行っている段階。

Q. ヘルスケアソリューションの受注残に、コロナ関連支援業務以外は含まれているか。

⇒206 億の受注残高のうち、約半分が SMO 事業。

Q. CRO 事業の稼働率の状況は。DCT など治験の効率化が進む中、今後の人員計画は。

⇒足元のリソースは逼迫しており、CRO 各社の人材採用意欲も強い。DCT など効率化が進む一方、開発案件は小規模かつ複雑化が進んでいるため、顧客ニーズに対応するためには当面は人員拡大の必要があると考えている。

Q. CDMO 事業で、品質問題によりジェネリック医薬品の受注は増加したか。足利工場の注射剤棟の稼働状況は。

⇒先発薬、ジェネリック医薬品問わず、医薬品の供給不足が続いているため、国内の受託生産量は拡大しており、新規顧客からの製造受託案件も続いている。足利工場の注射剤棟は、過去 1 年超、大型製品のバリデーションを進めてきたが、ようやく商用生産が始まって稼働率が上昇しており、今後フルキャパシティに近いオペレーションとなる。